

館報 はだ



令和3年1月1日現在

世帯数 6,221戸
人口 15,530人
男 7,504人
女 8,026人

2区 餅つき大会 & しめ縄作り

餅つき大会

師走に入り寒さも増して来た12月12日(土)、三溝研修センターにて小学生による餅つき大会を開催しました。

2区公民館としては、昨今の時節柄、行事を控えていたため、今年初めての行事となりましたが、小学生約20名が参加してくれました。

子供用の小さな杵を使って男の子も女の子もペタンペタンと楽しそうに餅をついていました。



小学校高学年男子の中には大人用の重い杵に挑戦する子もいました。あまりの重さに諦めていましたが、良い経験になったことでしょう。

つき上がった餅は、PTAの皆さんに協力していただき、「あんこ」「きな粉」「胡麻」の衣を付けました。

例年ですと豚汁も作り皆でテーブルを囲んで食べるのですが、今年は3密を避けるためパックに入れて持ち帰り、家で食べていただきました。



しめ縄作り

町内会公民館の役員で、三溝研修センター玄関用のしめ縄を作りました。

しかし、しめ縄作りの経験も少ない面々のため、知識をお持ちの方に師匠になつていただき、教えを乞いながら一生懸命作成しました。



しめ縄作りも一年に一回の行事であり、伝統を継承していくことの難しさを感じます。



発見! 波田の風景

新型コロナの影響で、各地の行事が自粛に追い込まれている昨今です。そこで今回は、近くにある何気ない日常の景色にスポットを当ててみました。

●下波田薬師堂

波田に住んでかれこれ30年になります。部屋の窓から見えるかわいらしくも姿の整った建物があります。それが薬師堂です。



薬師堂の裏側に畑があります。春は黄金色の一面の麦、秋は白一色のそばの花、そして薬師堂。借景ですが素晴らしい眺めです。

薬師堂を正面から見るとまさに日本の風景そのものです。歴史的なことはあまりわかりませんが、周りを囲んでいるお地蔵様を含め、一見の価値があります。波田の大切な財産のひとつです。

一度、見に来てください。6区、7区の公民館の近くです。また、皆さんの近くの「発見」も教えてください。



ウォーキング



昨今、全世界で猛威を振るっている新型コロナウイルスの脅威により、私たちはこれまでの常識とは大きく異なる新しい生活様式(ニューノーマル)の受け入れを迫られています。このことは仕事や他者との関わり方もさることながら、健康管理面においても例外ではありません。皆さんの中には、これまでスポーツジムに足繁く通っていたけれど最近では御無沙汰になってしまったとか、マラソンイベント参加がライフワークだったけれど悉く中止になって走る機会がめっきり減ってしまった、そうでもなくともただでさえ家にこもりがちで体重が増えてしまった(いわゆる「コロナ太り」)という方も多いのではないのでしょうか。かくいう私も最近ではズボンが少しきつくなってきました。

波田地区に居を構えて3年、私も妻もバタバタと用事と仕事を立て込み、ゆつくりと新天地の開拓が出来ていませんでした。丁度良い、と言っては語弊がありますが、新型コロナウイルス感染拡大防

止として、車を使って移動するという機会を減らし、北原団地周辺を毎晩ウォーキングすることとしました。波田駅を中心に歩いてみると、これまでいかに周りが見えていなかったかに気付かされ、発見の連続でした。銀行、郵便局、病院、スーパーは勿論、コンビニやクリーニング店、和菓子屋まであります。公園の前にはバスも巡回しており、生活をする上での不自由はありません。また夜でもウォーキングをしている方が少なくなく、軽い会釈、挨拶もしてくれそうです。

波田地区の一員となり、これからの人生を過ごす上での立地の良さ、人の良さに気付けたことが嬉しく、またズボンがすんなりに入った喜びもひとしお。ニューノーマルは悪い事だけでは無いという事が、大きな一歩となりました。(ウォーキングだけに)



私の趣味

皆さまは、普段テレビドラマとか映画をご覧になりますか？

私の趣味は、ドラマや映画のエキストラです。松本市のフィルムコミッションの募集にて、都合の合う日に参加をしています。

ですが、かれこれ十五年以上になります。この間一瞬でも映った作品は、六十作以上になります。波田地区でも何作か撮影していますので、撮影隊を見かけた方もおられると思います。

梓川沿いのリング畑の道を車で走行するだけのシーンも何作かありました。もちろん上高地線も何度か撮影に使われていたり、波田地区も活躍しています。

私はいろんな作品に出るために多少遠くても県内なら参加をしています。基本的にボランティアなので、おいしいロケ弁当と、お礼の記念品を楽しみに毎回参加しています。なんといつても楽しみは、俳優さんを間近に見ることができるとです。時には、地元のお食事を目当てに、俳優さん同士で、「今日はどこに食

べに行く？」とか聞かえて来る場合があります。話しかけはダメですが、話しかけられる分は、制限ありませんので、「どこどこは、ここから遠いの？」とか俳優さんに聞かれることもあります。

もう一つの楽しみは、衣装です。時代劇の足軽から、警察官、刑事、学校の先生、山岳救助隊、消防隊、医師等をやったりします。当日に衣装係さんから「あなたはこれ着て」と渡されて着ます。一度ふんどしを「ふんどしの巻き方」説明とセットで渡されたことがあり、出演者一同笑って身に巻いたこともありました。

出演も時にオーディションがあったりします。大抵落選するのですが、「毎日撮影参加できますか？」に対し、土日のみという回答だからかと自分を慰めていたりします。

昨年は一月の撮影以来、コロナの影響で出演がありません。また、過去に撮影した映画も今年公開に二作延期になりました。そんなさみしい状況ですが、常連のおじいさん達はいつも味のある演技ができており、あんな風に年を取れたらいいなと思ひながら、再開を夢見ています。



令和元年10月24日、「このまま泌尿器科に行きますか？」市立病院の先生の一言で思いもよらぬ日々を過ごすことになりました。五年に一度の会社の人間ドックで異常が見つかり、その結果を聞きに行った日のこと。それも、当初指摘された部分に異常はなく、専門外の先生が画像から腎臓のわずかな異変に気付いてくれたのです。

その後、最終的に導かれた結論は「腎臓がん」。ドラマでよく観る「がんの告知」でした。まさか自分という思いで腰が抜けたようになったのを覚えています。結局、翌年正月早々大学病院で左腎臓を切除する手術を受けました。「自分の身体のこととは自分が一番よく知ってるわ」と豪語される方が見えますがそれは間違いです。気が良い、悪いはあるにしても、体の中で何が起きているかは自分では解らないのです。

できるだけ定期健診等を受け、愛する家族のためにも大事になるのを防いでください。それが松本市が推進する「健康寿命延伸都市構想」に繋がるのです。まだまだコロナ禍が続くそうなの世の中ですが、皆さんくれぐれも「自愛ください」。